

平成 26 年度

事業報告書

自 2014 年 4 月 1 日 至 2015 年 3 月 31 日



公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会

目 次

I. 平成 26 年度 総括	1
II. 経営理念	
II. 事業報告	2
1. 事業実施状況	
2. 施設管理運営	
3. 事業実施報告概要（事業区分別）	3
4. 部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況	5
5. 各課（各施設）事業実施報告	
(1) こども育成課（指定管理事業：児童会館 104 館） （受託事業：ミニ児童会館 94 館、放課後子ども館：5 館）	15
(2) こども劇場課（指定管理事業：やまびこ座・こぐま座）	18
(3) 企画事業課（指定管理事業：若者支援施設 5 館）	23
(4) 企画事業課（地域活動等事業：野外活動事業） （自主運営施設：滝野自然学園）	26
(5) 野外活動課（指定管理事業：北方自然教育園）	27
(6) 野外活動課（指定管理事業：定山溪自然の村）	28
(7) 野外活動課（指定管理事業：青少年山の家）	30
(8) 市民参画課（指定管理事業：札幌エルプラザ公共 4 施設）	32
(9) 市民参画課（地域活動等事業：市民活動プラザ星園）	38
(10) 企画事業課（地域活動等事業：自主事業・受託事業）	39
6. 重要な契約に関する事項	41
7. こども基金（スマイルキッズ）協力者・助成対象一覧	
III. 事務報告	42
1. 設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 事務所の状況	
5. 役員等に関する事項	
(1) 理事 (2) 監事 (3) 評議員	
6. 職員に関する事項（事務局組織図）	44
(1) 主要な職員 (2) 職員数	
7. 会計に関する事項	45

I. 平成 26 年度 総括

近年、緩やかに景気の回復を感じさせるニュースが、大企業の決算報告などを中心に聞かれるようになってきている。札幌においても、外国人観光客の増加を体感する出来事が多く、北海道が出す月例経済報告「最近の経済動向」では、観光業界は「回復している」との見解を公表するなど、業界によっては回復傾向が見られつつある。これらの影響を受けてか、今春の大学生の就職率は96.7%であることが先日発表されたばかりであるが、同時に深刻な人材不足を嘆く状況もあり、特に中小企業にとっては、人材の確保が今後の法人運営、事業発展に大きく影響を与える状況となっている。

当財団においても、こども育成事業を中心に事業規模が年々拡大しているが、事業を安定して実施するための人材の確保が、法人の重要課題の一つとなっており、各種事業の実施主体である財団ならびに財団職員について、社会的に認知していただく取り組みを積極的に発信することが、これらの課題解決に向けた重要な行動となる。

平成 22 年度から平成 25 年度までの過去 4 ヶ年において、事業計画の基本方針の中で「広報活動の推進」・「事業活動の積極的発信」・「プロモーションの強化」などを掲げ、事業を展開してきた。その結果、近年では、各種メディアに財団事業を紹介していただく機会が増加しており、将来に向けた事業継続に大きな貢献をもたらすものになると確信している。

平成 26 年度は、既存事業を強化し各種助成金などを活用した新規事業への取り組みを行ったほか、指定管理事業においては、3 期目の事業がスタートするなど、今後の事業の方向性を見極め、再考する重要な年度であった。

社会的な環境は絶えず変化し、当財団においても 1,300 名を超える職員が在席する状況にある。課題解決に向けた様々な判断を柔軟性をもって行いながら、公益事業に邁進できる組織づくりを今後も進めていく。



公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会

Ⅱ. 経 営 理 念

「人とのつながりによる魅力あふれる地域社会の創造」

Ⅲ. 事 業 報 告

1. 事業実施状況

平成 26 年度 事業基本方針	
1	既存事業の強化と新規事業の開発
2	自主公益事業の拡充と滝野自然学園の積極活用
3	組織の効率化に向けた事業実施体制等の再設計
4	人材育成とガバナンスの強化
5	収支コストの最適化

2. 施設管理運営

(1) 自主事業 3 施設

- ・ 滝野自然学園
- ・ 市民活動プラザ星園
- ・ 岩見沢若者サポートステーション

(2) 指定管理 115 施設

- ・ 若者支援施設 5 施設
- ・ 児童会館 104 施設
- ・ 青少年山の家 1 施設
- ・ 定山溪自然の村 1 施設
- ・ 北方自然教育園 1 施設
- ・ 札幌エルプラザ公共4施設 1 施設
- ・ こども劇場 2 施設

(3) 受 託 99 施設

- ・ ミニ児童会館（94 施設）
- ・ 放課後こども館（5 施設）

3. 事業実施報告概要（事業区分別）

【定款第4条】 （1）青少年の健全育成と社会参加に関する事業

（2）社会教育の推進に関する事業

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

こども育成事業

（1）児童会館及びミニ児童会館事業

- ・ 青少年活動支援事業 ・ 体験機会創出事業 ・ 人材育成事業
 - ・ 施設管理運営事業 等
- （詳細 P.15）

（2）こども劇場やまびこ座・こぐま座事業

- ・ 人材育成事業（一般対象、こども対象） ・ 体験機会創出事業
 - ・ 地域連携事業 ・ 施設管理運営事業 等
- （詳細 P.18）

（3）地域活動等事業

- ・ 学習支援事業
- （詳細 P.40）

若者自立支援事業

（1）若者支援施設事業

- ・ 自立支援事業 ・ 受託事業 ・ 体験機会創出事業 ・ 人材育成事業
 - ・ 地域連携事業 ・ 調査研究事業 ・ 施設管理運営事業
- （詳細 P.23）

（2）地域活動等事業

- ・ 自立支援事業 ・ 受託事業
- （詳細 P.39）

自然体験活動事業

（1）滝野自然学園

- ・ 体験機会創出事業 ・ 職員派遣事業 ・ 人材育成事業 ・ 情報発信事業
 - ・ 団体支援事業 ・ 施設管理運営事業
- （詳細 P.26）

（2）北方自然教育園事業

- ・ 体験機会創出事業 ・ 地域連携事業 ・ 学習支援事業 等
- （詳細 P.27）

（3）定山溪自然の村事業

- ・ 体験機会創出事業 ・ 地域連携事業 ・ 学習支援事業 ・ 人材育成事業
 - ・ 施設管理運営事業
- （詳細 P.28）

（4）青少年山の家事業

- ・ 体験機会創出事業 ・ 人材育成事業 ・ 団体支援事業
- （詳細 P.30）



【定款第4条】 (3) 市民活動の振興に関する事業

公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

市民活動振興事業

(1) 札幌エルプラザ公共4施設事業

- ・活動支援事業
- ・人材育成事業
- ・職員派遣事業
- ・地域連携事業
- ・情報発信事業

(詳細P.32)



【定款第4条】 (4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

収1 イベント・物品貸与等事業

- ・民間企業等から受託したイベント企画運営等事業
- ・物品貸与等事業

他1 札幌エルプラザ等施設管理運営、公益目的外での施設貸与事業

- ・札幌エルプラザ公共4施設、定山溪自然の村、青少年山の家、市民活動プラザ星園の管理運営業務
- ・こども劇場、若者支援施設における公益目的外での施設貸与事業



4. 部門別重点目標及び数値目標の達成状況

こども育成課・児童会館管理課

児童会館・ミニ児童会館



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

重点目標	数値目標
<p>【地域活動等事業】</p> <p>①人と人とのつながりを大切に、遊びをとおした豊かな体験活動を進める。</p> <p>②個々の子どもとのかかわりを大切に、自己肯定感を高める。</p> <p>③地域の中で安心して子育てができる環境づくりを進める。</p> <p>【施設管理事業】</p> <p>①地球温暖化の防止や循環型社会の形成から地球環境問題を視野に入れ、経費節減や効果的な運営維持を図る。</p> <p>②平等利用を基本とし、地域から愛される児童会館を運営する。</p>	<p>①グループワーク 子どもたちがつながるクラブ活動を各会館1つ以上実施。</p> <p>②ケースワーク 中・高校生の意見を取り入れた事業を各館1回以上実施。</p> <p>③コミュニティワーク 地域に向けて、児童会館の理解につながる活動を各会館年1回以上実施。</p>
<p>【達成状況】</p> <p>【地域活動等事業】</p> <p>①1月に全市統一事業「げんキッズ2015」を実施した。各館のクラブ活動の発表、模擬児童会館の運営等、遊びをとおした体験活動により多くの子どもたちや大人の繋がりを深めた。</p> <p>②ケース記録を作成することで、個々の支援を検証し振り返り、シェアの流れを作り、次年度に向けさらに活用方法を促し、自己肯定感の向上に繋げる。</p> <p>中高生については、全館で対象事業を実施し、居場所としての認識に広がりが出てきた。次年度は中高生が企画立案する事業を実施することでこれまで以上に充実した利用促進を進める。</p> <p>③「地域資源マップ」、「リーフレットの作成と配布」等のより各地域の状況を再確認し、今後の関係をより深めるための素材作りを手掛けた。27年度に向け、地域との関係をより深めた相互理解を進める。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>①環境配慮への取り組みについて職員が知識を深めるとともに、利用者とともに行う事業も実施した。</p> <p>日常活動や事業をとおして、子どもたちと共に学び実践することを目的とした環境研修の開催。全館から1名づつ参加し、学びを共有した。</p> <p>環境事業として、25年度に引き続き「緑のカーテン」事業を実施。収穫した作物を教材や食材として利用することで、子どもたちの食育と環境に対する意識づけも強化できた。</p> <p>②すべての利用者（乳幼児・保護者・小学生・中高生、また、男女・障がいの有無・利き手）が平等に会館を利用できるよう配慮した。</p> <p>ルール作りについては利用者と共に考え工夫するよう努めた。</p> <p>占用利用については、施設利用に関する説明や案内を適切に行うよう努めた。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>①全館でクラブ活動実施：達成率100% 全206件／延べ参加人数37,600名 各館で様々な活動が取り入れられ、会館での活動に展開が見られた。</p> <p>②中・高校生の意見を取り入れた事業を各会館1回以上実施：達成率100% 中・高校生の声を基に、スポーツ交流会やクッキングなどさまざまな事業を開催し、交流を図った。</p> <p>③地域に向けて、児童会館の理解につながる活動を各館年1回以上実施：達成率100% 具体的には、地域向けの情報誌の発行、地域（町内会、PTA、青少年育成委員等）との連携、地域事業への参加等様々であったが、全館で活動を展開し、理解拡大へつながっていた。</p>



公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収 1 イベント・物品貸与等事業

他 1 目的外での施設貸与事業



重点目標	数値目標
【地域活動等事業】 ①地域社会における文化的役割と意義 【施設運営等事業】 ①人材育成と創造型の劇場運営 ②利用者の目線での施設運営 ③児童文化の発信基地及び文化施設としての役割の明確化 ④最小経費で最大効果を	〈年間上演日数〉 120 日 〈年間公演数〉 200 回以上 (両劇場共通) 〈新規人形劇団の誕生、育成〉 3 団体以上 〈年間利用者数〉 やまびこ座 55,000 名 こぐま座 15,000 名 〈利用者満足度〉 85%
【達成状況】 平成 26 年度は、長野県飯田市にて開催された日本最大の人形劇フェスティバル「いいだ人形劇フェスタ」に札幌の劇団が招へいを受け、上演参加を行った。これまでの札幌の人形劇活動が認められた形となり、活動協会 35 周年記念事業として実施できたことは大きな成果であった。また今年度の新たな取り組みとして、「第 66 回さっぽろ雪まつり」において、大雪像を舞台にした人形劇オペラを制作・上演した。やまびこ座・こぐま座からは中高生のパペットユースや人形浄瑠璃芝居あしり座らが出演し、人形劇の新たな魅力を広く発信することができた。昨年度に引き続き、外部との連携事業（元町北小アウトリーチ事業、砂川人形劇指導、こども人形劇舞台祭典等）も積極的に展開することができ、劇場の取り組みの PR も含め、さまざまな関係機関と連携することができた。 ①公演事業については、目標の 200 ステージを達成し、夏・冬・春の特別公演を始め、文化庁補助事業「劇場・音楽堂等活性化事業」として上演したアイヌ文化を題材とした「プロデュース人形劇」、演劇に関する育成事業「プロデュース公演」など多彩なプログラムを提供できた。今後は集客の安定化が見込める広報宣伝の工夫やボランティアの育成・活用をととして公演の活性化と充実を図ることが課題である。 ②事業の柱である人材育成事業については、児童劇、人形浄瑠璃など、子どもから大人までのつながりを生かした事業展開が実を結んだ。将来の担い手である子どもたちを育成していく土壌が出来てきたと言える。「あしり座 20 周年記念公演」はその集大成となった。こぐま座においても、人形劇講座をととして子どもから大人までの各世代が互いに刺激し合う中で、スクランブルシアター（発表公演）を行うことができ、人形劇の楽しさに触れ、自信と充実感を得られる事業となった。 ③社会貢献事業としての福島支援人形劇公演も 4 年目となり、今年度も 3,000 人以上の方々に観ていただくことができた。各人形劇団の協力と、現地コーディネーターの方々の尽力で、福島の子供たちに人形劇を届けることができた。劇場における重要な役割として継続していきたい。	【達成状況】 (やまびこ座) 〈年間上演日数〉 133 日(110.8%) 〈年間公演数〉 205 回(102.5%) 〈新規人形劇団の誕生、育成〉 4 劇団(133.3%) 〈年間利用者数〉 56,552 名(102.8%) 〈利用者満足度〉 89.2%(104.9%) (こぐま座) 〈年間上演日数〉 143 日(119.2%) 〈年間公演数〉 221 回(110.5%) 〈新規人形劇団の誕生、育成〉 4 劇団(133.3%) 〈年間利用者数〉 17,493 名(166.6%) 〈利用者満足度〉 89.9%

札幌市若者支援総合センター 札幌市若者活動センター(4施設)

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他1 目的外での施設貸与事業

重点目標	数値目標
【地域活動等事業】 ①施設の所属する地域イベント事業への継続的で積極的な関わりを意識し、職員のみならず若者にシフトしていく土壌を作っていく。 ②厚生労働省から受託する若者サポートステーション事業において、札幌と岩見沢が職員間の連携及びサポート体制を組み、必要に応じてNPO法人コミュニティーワーク研究実践センターの協力を仰ぎ、若者の自立支援を推進していく。(人材育成含む) 【施設運営等事業】 ①調査・研究・研修を通じた職員のスキルアップと事業のレベルアップを図る。 ②施設及び提供備品の整備と稼働率の向上を図る。 ③若者支援施設の利用促進を図るための広報活動の充実を図る。 ④ENGINE-LINKにおける全若者団体登録を推進する ⑤他機関との連携強化を重視した事業展開に努める。	【地域活動の企画運営に携わった若者数】 11,000名以上 【登録若者団体数】 180団体 【利用証の発行を受けた若者数】 13,000名以上 【若者登録者の延べ利用数】 175,000名以上 【自立支援の新規相談登録者数】 630名以上 【進路決定及び最適な支援機関につながった困難を有する若者数】 370名以上
【達成状況】 【地域活動等事業】 ①若者支援施設5館で「若者のまちづくり活動への参加」等をテーマとした座談会を実施した。座談会に参加した若者が、実際にまちづくり活動に参加したり、自主企画で再度座談会を開催した。 ②岩見沢地域若者サポートステーション事業は進路決定者数が目標数値に達せず、また、厚生労働省の事業費自体の削減、学校連携事業等の本体以外の事業の削除、委託料の削減などから、職員配置等の規模を縮小することになった。札幌市においても同様に本体事業費が削減されたが、札幌市からの自立支援に付随した関連業務の受託により収入減を補うことが出来た。各団体など外部への講師派遣においても職員育成の機会と捉え、主任指導員や指導員を同行させ、経験を積ませることができた。 【施設運営等事業】 ①ユースワークの先進的な事例を持つフィンランドからのゲストを招き、横浜市、京都市などの同様の業務を行っている職員と同じテーブルで議論が出来たことは、大きな財産となった。 ②毎月の休館日に利用者に提供する備品等のチェックを行い、年度末の廃棄処分や買い替えにより備品の購入を行った。 ③ツイッター(Twitter)のアカウントを取得し、情報の提供を拡大したほか、若者情報誌「えん」第4号、前年度発行して好評であった「しろっぴ(白石区MAP)」2号、3号を発行し、利用者拡大へつなげた。 ④登録団体 523団体(前年度144団体) ⑤学校連携プロジェクトを立ち上げ、「訪問型ユースワーク～札幌市若者支援施設による学校連携事業紹介」に活動事例として3月に500部発行。	【達成状況】 【地域活動の企画運営に携わった若者の数】 13,327名(121.2%) 【登録若者団体数】 523団体(290.6%) 【利用証の発行を受けた若者数】 14,652名(112.7%) 【若者登録者の延べ利用数】 199,163名(113.8%) 【自立支援の新規相談登録者数】 434名(68.9%) (札幌338名、岩見沢96名) 【進路決定及び最適な支援機関につながった困難を有する若者数】 306名(82.7%) (札幌259名、岩見沢47名)

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

重点目標	数値目標
【地域活動等事業】 ■事業 <ul style="list-style-type: none"> 森のようちえん年長コースを新設し、対象年齢にあった段階的なプログラム運営・支援を実践する。 財団関連施設利用者向けプログラムの開発と実践を行う。 冬のプログラム開発（かまくら村等）を積極的に行い、利用促進につなげる。 ■管理 <ul style="list-style-type: none"> 施設内外の美化 中長期の利用促進計画と修繕計画 裏山の活動フィールド整備、拡大 	〈利用人数〉 延べ 5,415 名 〈利用件数〉 128 件
【達成状況】 ■事業 <ul style="list-style-type: none"> 対象年齢に応じた段階的な事業展開を行うことができた。引き続き、系統立てた支援プログラムによる整理を行っていききたい。 実践したプログラムを財団関連施設を含めた内部向けに広く周知を行った。今後も先駆的な取り組みを実践し、協会内部のノウハウ蓄積を行っていききたい。 冬季のプログラム開発については、かまくら製作の試作を行い、次年度に繋げられるデータ収集を行うことができた。次年度以降は主催事業での実施を目指す。 ■管理 <p>木造の歴史ある建物と自然豊かなフィールドを有する施設であるため、細部にわたる施設点検や修繕を行った。また、施設を支える屋根や木床については、大規模修繕を行い、維持管理に努めた。</p> <p>裏山フィールドの笹刈りを行い子どもたちがストレスなく利用できる整備を行うことができた。</p>	【達成状況】 〈利用人数〉 延べ 6,138 名 (113.3%) 〈利用件数〉 98 件 (76.6%)



公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

重点目標	数値目標
<p>【施設運営等事業】</p> <p>①施設内及び園内の安全管理の徹底 (倒木処理、作業後の農機具撤収確認、危険昆虫・動物等野生生物からの防除等)</p> <p>②施設PRのため、広報等を通じて貸室利用の拡大を図る</p> <p>③施設内外における情報提供を充実し、学習館入館(観覧)の利用増を図る</p> <p>④市民ボランティア及び事業協力者と協働した事業展開と内容の充実</p> <p>⑤冬期来園者増に向けた事業プログラムの開発 (屋内・屋外の利点を活用した事業プログラム及び冬期フィールドの活用)</p> <p>【地域活動等事業】</p> <p>①地域社会の自然環境を理解する事業の実施</p> <p>②自然素材を活用した提供事業の実施</p> <p>③自然素材に触れることで環境が人間生活に密接し、自然の恵みを生活に活用してきた歴史や経緯を伝える</p>	<p>①学習館入館(観覧)の増 一般来園「大人」 3,000名 うち有料入場者数 1,500名 150,000円 (@100×1,500人)</p> <p>②貸室利用(利用料金等)20%増 30,000円</p> <p>③電気使用量3%減 61,600kwh</p>
<p>【達成状況】</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>施設内外の安全管理については、定期的な施設点検や野生生物侵入防止対策として設置している電気柵稼働確認を適宜行ない、円滑な施設運営に努めたほか、自然環境や希少生物などの理解と関心を深めるための試みとして、ロビーミニ展示の内容充実と展示に連動した事業を企画することにより、魅力ある施設作りを実施した。</p> <p>また、事業実施にあたっては、地元協力者や施設ボランティアとの協働展開を進めることにより、来館者とボランティアが事業を通じて関わる場面が随所に見られ、地域との繋がりをより一層深めることができた。</p> <p>【地域活動等事業】</p> <p>野生生物や地殻・天気を題材としたミニフォーラムを実施。生き物や自然現象に対する理解を深め、市内における自然環境の特色を学ぶ機会となった。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>①学習館入館(観覧) 3,356名 (111.9%) うち有料入場者数 1,212名 (80.8%) 121,200円 (@100×1,212名、 80.8%)</p> <p>②貸室利用(利用料金等) 33,100円 (110.3%)</p> <p>③電気使用量 65,708kwh</p>



公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他 1 目的外での施設貸与事業

重点目標	数値目標
<p>【地域活動等事業】</p> <p>①地域活動等事業の拡充</p> <p>②発展的事業の推進</p> <p>【施設運営事業等事業】</p> <p>①貸室事業におけるサービスの質的向上</p> <p>②初心者のための野外活動支援強化</p> <p>③市民の企画による自然体験事業支援の推進</p> <p>④広報業務の強化及びプロモーションの実施</p> <p>⑤能力・専門性を高めるための研修強化</p>	<p>〈施設利用料金収益〉</p> <p>5%増加：13,189 千円</p> <p>〈事業参加者数及び事業件数の増加〉</p> <p>①キャンプ初心者講習会 参加者の増加：500 名 (月 2 回)</p> <p>②連携事業の増加：20 回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持込支援事業：5 回 ・地域連携事業：5 回 ・企業協賛事業：10 回
<p>【達成状況】</p> <p>【地域活動等事業】</p> <p>複数回継続実施事業において、継続参加者が新規参加者同士の交流促進の一翼を担うなど、自然体験活動を通じた人材育成事業を推進した。また、幅広い年齢層の方々に環境保全に対する知識と理解を深める機会を提供するとともに、普及・啓発活動の担い手を育成した。</p> <p>【施設運営等事業】</p> <p>貸室事業において、閑散期（11 月～3 月）の利用促進プランとして実施している「平日割引」では、問合せ及び利用がやや増加した。また、季節に応じた事業を推進することで、利用満足度の向上を図った。</p> <p>野外活動初心者ファミリー向け事業及びシルバー世代対象事業では、時代のニーズに合った活動提案を行うことにより、定員を大幅に上回る申込を毎回いただいた。事業参加をきっかけとした施設利用に繋がり、初心者の野外活動支援強化に繋がった。</p> <p>広報活動においてはホームページ及びソーシャルネットワークサービス（SNS）を活用したリアルタイムな情報提供を推進した結果、各種情報誌及びインターネット広報媒体からの情報掲載依頼件数が増加した。また、札幌駅前通地下歩行空間で実施された「定山溪温泉 PR フェア i n チカホ」でブースを出展することにより、広く市民に自然の村の魅力を発信することができた。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>〈施設利用料金収益〉</p> <p>5%増加：12,099 千円 (91.7%)</p> <p>〈事業参加者数及び事業件数の増加〉</p> <p>①キャンプ初心者講習会 参加者の増加：398 名 (72 回・79.6%)</p> <p>②連携事業の増加：25 回 (125%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持込支援事業：14 回 (280%) ・地域連携事業：3 回 (60%) ・企業協賛事業：8 回 (80%)



公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他 1 目的外での施設貸与事業

重点目標	数値目標
<p>【施設運営等事業】</p> <p>公益財団法人としての使命を自覚し、新たな指定管理の初年度として、管理運営体制の確立を図る。また、学校利用（小学 5 年生の宿泊学習）の安定運営を目指すことを重点に置きながら、「事業運営のしくみ」で標記している 3 本の柱を中心に事業を展開する。</p> <p>①人材育成 多様化、高度化する社会ニーズに素早く的確に対応し、活気ある職場づくりを進めるため、青少年山の家管理運営業務上必要とされる知識及び技能等の習得を計画的に進め、職員の資質向上を目指す。</p> <p>②事業 小学校の宿泊学習の支援を最重点目標とする。特に事前学習の支援として山の家職員が利用間近な小学校へ出向く「出前授業」の充実や宿泊学習後にお便り等を発行して事後学習の支援を行う。</p> <p>③管理 計画的な施設運営による事務の効率化を図り、経費節減に努めるとともに、修繕や備品の更新など維持管理計画を策定する。</p>	<p>〈利用人数〉 75,780 名 〈利用満足度〉 80%以上</p>
<p>【達成状況】</p> <p>指定管理 2 期目初年度の運営は、これまでの運営方法を踏襲しつつも、新たなプログラムの開発やシステムの見直しを積極的に行った。特に野生動物プログラムの開発やロビーのリニューアルプロジェクトは、職員の仕事に取り組む姿勢の変化をもたらし、山の家における利用者サービスの方向性を示すものとなった。</p> <p>また、滝野公園管理者に対してもこれまでの懸案事項改善に向け積極的な提案を行い大きな一歩を踏み出すことができたとともに、これまで構築してきた関係性をさらに発展させる機会となった。</p> <p>施設管理面では、指定管理業務の仕様にに基づき約 2 か月間の大規模改修工事が実施された。給湯設備改修工事（配管、給湯設備の更新）、弱電設備改修工事（照明の LED 化）のため休館となったが、青少年山の家利便性向上に向けた取り組みに着手できた。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>〈利用人数〉 69,897 名 (92.2%) 〈利用満足度〉 91.7%</p>



公 2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

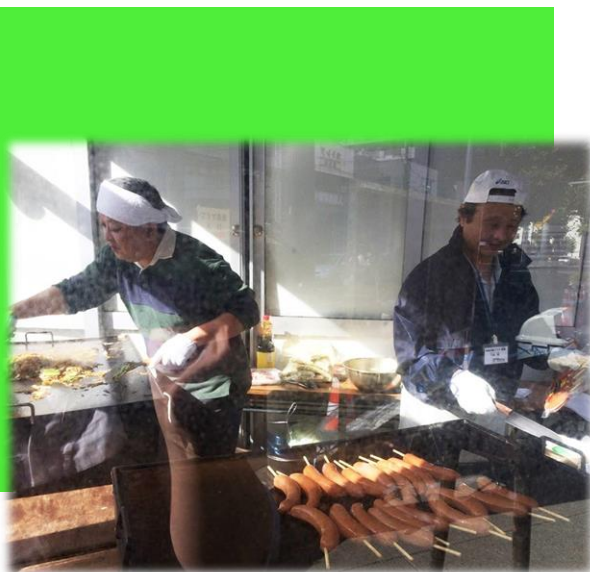
他 1

目的外での施設貸与事業

重点目標	数値目標
【地域活動等事業】 ①ニーズを捉えた市民サービスの向上 【施設運営等事業】 ①コスト・マネジメントで経費と業務の効率化を目指す ②施設管理における省エネルギー化 ③事業成果の可視化	①施設全体管理 施設総利用者数：年間 700,000 名 ②男女共同参画センター 女性の起業・キャリア支援事業 参加者（相談含む） 150 名 ③市民活動サポートセンター 市民活動相談件数：年間 900 件 ④環境プラザ 環境教育プログラム参加者数： 5%増加 ⑤情報センター ライブラリーサロン実施団体： 20 団体
【達成状況】 【地域活動等事業】 利用者から要望の多い椅子の貸し出しと要望のあった特大ロッカーや無線LANルーターの貸し出しなどを行い、市民サービスの向上に努めた。 【施設運営等事業】 ①コスト・マネジメントを意識した業務の遂行を行い、軽減された経費については、事業等で活用するなどの効果的な経費の執行に取り組んだ。 ②継続的に館内の蛍光灯器具等の間引き点灯やエスカレーター1～2階の2機の停止、ホールへのエコフィルターの設置などを実施し、エネルギー使用量の削減を目指した結果、原油換算前年度比 99%の節減となった。 ③事業報告書を作成し、事業成果の周知を行った。各施設のHP、ブログ、フェイスブック等を活用し事業の広報を行うとともに、終了後には速やかに活動報告を実施した。	【達成状況】 ①施設全体管理 施設総利用者数 年間：667,006 名（95.3%） ②男女共同参画センター 女性の起業・キャリア支援事業 参加者（相談含む）：1,977 名 （1,318%） ③市民活動サポートセンター 市民活動相談件数：654 件 （72.7%） ④環境プラザ 環境教育プログラム参加者数： 5,427 名（4.6%増） ⑤情報センター ライブラリーサロン実施団体： 11 団体（55%）



重点目標	数値目標
【地域活動等事業】 ①市民まちづくり活動団体の活動拠点を提供し、日常的な関わりや連携事業を通じて、成長の加速を促す。 ②地域課題を把握し、地域の一員として必要とされる施設を目指す。 ③元気ジョブや入居団体と連携し、子どもや子育て中の保護者、社会に適合しようと悩む若者、障がいのある方や高齢者などの市民が、安心して地域活動へ参画できるよう積極的な情報提供や機会提供し、生き生きとしたまちづくりの拠点をを目指す。 ④1F 交流スペースを活用し、研究実践センターと協働でカフェスペースを活用した地域住民、個人活動家向けのカフェ事業活動を発信していく。	①活動スペース入居団体：20 団体（活動スペース入居率 80%以上） ②貸室利用登録団体：25 団体 ③施設利用人数：10,000 名以上 ④貸室稼働率：45%
【達成状況】 【地域活動等事業】 ①オープンスペースの活用事業等を中心に、市民活動団体の日常的な連携、協働の場の提供を行い、活動促進を図ることができた。 ②清掃をはじめとした地域活動へ積極的に参加し、地域の持つ課題の把握と連携を深めることができた。 ③入居団体および元気ジョブ等と連携し地域向けイベントを実施し、地域の拠点施設としての認知度を高めることができた。また、若者を主とする市民活動団体と共催し、事業実施を行ったことにより活動の支援施設としてまちづくり活動の促進を図ることができた。 【施設運営等事業】 ①研究実践センターと協働しオープンスペースを活用したカフェの運営を行い、広く地域住民や起業家の方の交流および活動促進の場を提供することができた。	【達成状況】 ①活動スペース入居団体：21 団体（105.0%）※活動スペース入居率 95.4% ②貸室利用登録団体：22 団体（88.0%） ③施設利用人数：83,202 名（832.0%） ④貸室稼働率：20.1%



重点目標	数値目標
【地域活動等事業】 ■事業 ① 新規事業の掘り起こし（当協会の事業概要 PR） ② 収支バランスを整理したうえでの既存事業の取り組み ③ JICE との連携体制の強化 ■管理 ① 自主事業実施における、各課との横断的連携体制構築（事業概要の情報開示、情報交換） ② 備品等の適正管理とメンテナンスの徹底	【事業収益総額】 4,500 万円以上 【各事業実収益率】 35%以上の確保 （約 1,500 万円以上）
【達成状況】 ■事業 ・「ミニさっぽろ 2014 実行委員会事務局」が当協会に設置される、「札幌国際芸術祭 2014 コロガル公園運営業務」を委託される等これまでの事業実績が新規事業の獲得に繋がっている。 ■管理 ・自主事業を展開するにあたり、各セクションと連携のうえ「専門性」を十分発揮したプログラムを提供することができた。今後は、自主事業と指定管理事業の互いにとってより有益な事業スタイルの確立を検討していく。	【達成状況】 【事業収益総額】 5,190 万円 （115.3%） 【各事業実収益率】 約 50%確保



5. 各課（各施設）の事業実施報告

（１）こども育成課【指定管理事業：児童会館 104 館】

【受託業務：ミニ児童会館 94 館／放課後こども館 5 館】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
青少年活動 支援事業	<p>「子育てサロン」</p> <p>人と人とのつながりを支援し、地域の中でともに育ちあう環境づくりを目的に実施。札幌市の施策「常設サロン」も地域に拡がり、実施回数が増えることで保護者との関係性も深まってきた。</p>	<p>保護者 126,528 名</p> <p>幼児 143,071 名</p>
	<p>「放課後児童クラブ事業」</p> <p>留守家庭児童の放課後の居場所として、居心地のよい生活環境や遊びの提供をととして、子ども一人ひとりの健全育成事業を提供。</p>	<p>児童クラブ在籍数</p> <p>12,373 名</p> <p>(平成 26 年 3 月末現在)</p>
	<p>「中・高校生夜間利用等運営事業」</p> <p>中・高校生の居場所づくりと一人ひとりの自己実現の場となることを目指し、中・高校生夜間利用「ふりーたいむ」を 101 館で実施。今年度も豊平区内の児童会館が豊平若者活動センターと連携して開催した「とよひらっぴーフェスティバル」は、中・高校生と若者をつなぐ良い機会となっている。</p>	<p>【とよひらっぴーフェスティバル】</p> <p>会場：豊平若者活動センター</p> <p>3/21</p> <p>131 名</p>
体験機会 創出事業	<p>「講習会・発表会」</p> <p>【げんキッズフェス 2015～とびだせ！じどうかいかん～】</p> <p>子どもたちによる子どもたちのイベント開催を目指して実施。ステージ発表はたくさんの観客で盛り上がり、日ごろの練習の成果を存分に発揮していた。</p>	<p>会場：サッポロファクトリー</p> <p>1/18</p> <p>3,500 名</p>
	<p>「環境活動（ごみゼロ大作戦事業、プルタブ大作戦事業）」</p> <p>プルタブで交換した車いすは、小学校 3 校へ寄贈した。環境への取り組み事業として、札幌市環境局主催事業「さっぽろこども環境コンテスト 2014」で 2 つの実践を発表し、西区合同事業「自然アドベンチャー」は児童会館部門最優秀賞を受賞し、市長への報告を行った。今後もより高い意識での環境活動が期待される。</p>	<p>【環境コンテスト】</p> <p>会場：エルプラザホール</p> <p>12/6 10 名</p> <p>(活動取組人数)</p> <p>132 名</p>
	<p>「社会奉仕活動(清掃活動、施設訪問、防犯・防火活動等)」</p> <p>東日本大震災以降、岩手県内の被災地域を中心に行っている支援交流活動は、今年度は「支援から交流へ」がテーマ。</p> <p>札幌市児童会館児童が制作準備した工作キット、手作りプレゼントが現地児童の手に渡り、札幌と現地の交流活動が展開された。今後も「交流」につながる事業を検討していく。</p>	<p>【岩手県への現地支援】</p> <p>・ 8/28～8/31</p> <p>・ 10/15～10/19</p> <p>233 名</p> <p>(9 会場合計)</p>

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会 創出事業	「交流活動（地域交流、お泊まり会、合同行事等）」 地域に開かれた児童会館を目指し、積極的に地域交流事業を実施。厚別区もみじ台児童会館では、児童会館と NPO の連携事業として「なないろドーナツ事業」を実施した。	【なないろドーナツ】 10 月～1 月 98 名
	「野外・自然体験活動事業(キャンプ、畑づくり、遠足等)」 畑づくりを行い、収穫時には円山動物園の動物たちへのエサとして野菜を提供する事業や、収穫した作物を利用したクッキング行事に発展させるなどの工夫がみられた。	通年
	「伝統芸能活動事業（伝承あそび、生け花、茶道、将棋等）」 季節に合わせた行事を各館で取り入れ、遊びの伝承などを行った。百人一首大会など各区で実施。	通年
	「体力増進・スポーツ事業（日常あそび、外あそび等）」 スポーツ、遊びなどをおして、健康の増進を図り、社会性やルールなどを身に付けることを目的に、各館での日常活動、行事などに取り入れている。	3/14 66 名
	①「新さっぽろ冬まつり 2015」 ②「創作活動事業・読書活動の推進・図書環境整備事業」	①1/31～2/1 3,500 名 ②通年
学習支援 事業	「学習活動事業（学習レシピの活用等）」 小学生の学習環境の改善や、学習意欲の向上を目的に、北海道退職校長会札幌厚別支部や地域ボランティアの協力をいただき、学習支援事業を実践した。	10 月～3 月 2,274 名
人材育成 事業	「リーダー育成事業」 継続した活動を行うことで、参加児童は責任感と仲間意識を育み、自分自身のスキルの向上とともに、グループ活動の促進を目指した。職員についても、活動ごとに共通のふりかえりシートにてグループワークの視点からクラブ活動を見直すことを意識した。	通年 全 206 件 延べ 37,600 名
	①「子ども運営委員会」 ②「実習等受入事業」	①7,772 日 57,932 名 ②35 日 175 名
施設管理 運営事業	施設の老朽化に伴い、多くの会館で修繕業務を実施した。業者へ依頼した修繕のほか、比較的簡易な修繕から、引き戸の戸車交換や、木工作業などまで、修繕担当の職員が会館を回りこまめに作業を行うことができた。	通年

【平成26年度 札幌市児童会館(104館)およびミニ児童会館(86館)利用状況】

(1)利用状況

(人)

区 分	開館日数 及び回数 (延べ数)	人 数	利 用 人 数 の 内 数					
			幼児	低学年	高学年	中学生	高校生	一般
児童会館	30,765	2,261,514	228,989	1,195,659	342,149	109,165	67,097	318,455
ミニ児童会館	25,343	1,110,294	6,384	881,812	202,770	1,461	938	16,929
占用利用	24,542	356,452	19,414	67,056	76,130	40,678	9,476	143,698
総 利 用		3,728,260	254,787	2,144,527	621,049	151,304	77,511	479,082

総利用人数(前年度3,421,989人・前年比109.0%)

(児童クラブ在籍数)

(人)

区分	平成26年4月末日現在の在籍数							延べ 入会	延べ 退会	平成27年3月末日現在の在籍数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
在籍人数	4,000	3,576	2,622	1,361	602	166	12,327	14,792	2,554	4,351	3,626	2,486	1,223	537	150	12,373

4月末日現在の在籍数の比較(前年度11,109人・前年比111%)

(学校からの直接来館届出数)

(人)

区 分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
クラブ員の兄姉	0	1	23	116	154	96	390
特別支援学級等	3	14	8	2	3	6	36
特認校	44	37	31	23	15	3	153
その他	1	0	0	0	0	1	2
計	48	52	62	141	172	106	581

(前年度544人・前年比106.8%)

(障がい児受け入れ数)

(人)

区 分	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	内訳	
								クラブ	直来
普通学級	92	67	93	54	53	24	383	301	82
特別支援学級	50	67	65	49	42	30	303	149	154
特別支援学校	1	6	1	1	1	0	10	0	10
計	143	140	159	104	96	54	696	450	246

(前年度人656・前年比106.1%)



(2) こども劇場課【指定管理事業：こどもの劇場やまびこ座・こども人形劇場こぐま座】

①やまびこ座

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
人材育成事業 (一般対象)	「東区市民劇団育成事業」 東区在住の一般市民から公募し、演劇ワークショップを実施。市民劇団「オニオン座」を立ち上げ、その成果発表の公演を実施。	5/20～10/7 706 名
	「あしり座技術向上講習会」 地域に伝わる伝統文化の活性化や振興のため、各地域の主体的、総合的取組みを支援することにより、有形・無形の歴史的な文化遺産を活かしたまちづくりや伝統文化の確実な継承と地域の活性化に資することを目的とした講習会を実施。	5/31～2/19 198 名
	「人形浄瑠璃講習会／義太夫講習会」 人形浄瑠璃講習会では、人形浄瑠璃の特殊な操作方法である「三人遣い」を学んだ。義太夫講習会では人形浄瑠璃の義太夫・三味線の講習会を実施。	4/8～2/19 (浄瑠璃) 217 名 (義太夫) 420 名
	「短期特別講習会・ワークショップ」 人形劇の始まりや幕間にも最適な手遊びの実演を交えた講習会、玉人形(手遣い人形)を作成し、人形劇の特質や魅力を伝えるワークショップ、総合的な学習の一環として舞台発表の体験を行った。	9/24～25 27 名 4/11 60 名 9/4 14 名
	「第 43 回札幌人形劇祭」 道内及び札幌で活動する人形劇団による、審査員による人形劇・演劇のワークショップとコンクール形式の連続公演。「大人部門」と「こども部門」合わせて 17 団体が参加。	11/22～11/24 562 名
人材育成事業 (こども対象)	「やまびこ座遊劇舎」 小学 3 年生～6 年生対象、劇あそびや表現あそびなどをおして、舞台表現、演劇表現などを体験。	5/23～12/21 911 名
	「劇☆やまびこ座 YOUTH」 中高生を対象に、劇づくりをおして表現する喜びや自主性、異年齢間の交流を目的とした演劇活動を実施。	6/7～2/1 777 名
	「ざ・にんぎょうじょうりゅうユースクラス」 中高校生を対象とした人形浄瑠璃の義太夫・三味線講習会を実施。	5/27～12/13 492 名
	「こども舞台体験プログラム『ふれアート』」 日本の伝統や心に触れる機会を提供するとともに、地元劇場とそこで取り組んでいる舞台芸術に親しみを持ってもらおうよう実施。 人形浄瑠璃三人遣い体験、義太夫・三味線体験、鳴物体験、伝統文化、舞台裏方体験を実施。	7/12～1/12 254 名

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	「元町北小学校アウトリーチ事業」 子どもの表現活動の指導者として、インストラクターを地域の小学校に派遣し、人形劇講座を実施、劇団育成を図った。	7/8～12/19 1,597 名
	「読み語りの会」 図書コーナーの活用、幼児の利用促進を目的に、ボランティアグループによる協力で、平日に絵本、紙芝居などの読み語りを実施。	4/9～3/11 750 名
地域連携事業	「2014 やまびこ座夏まつり」	8/9～10 4,808 名
	「こども人形劇舞台祭典 2014 in ISHIKARI」 石狩各所において、こどもの文化『鑑賞』『体験』『創造』をテーマに長期的なプログラムで行った。専門人形劇団やアマチュア人形劇団による巡回公演を実施した。	11/29～3/28 1,663 名
	プロデュース人形劇「銀のしずくふるふる・・・ フクロウの神さまが歌ったはなし」巡回公演 昨年度制作のプロデュース人形劇の上演依頼を受け上演した。	11/1、16 430 名
公演事業	「継続被災地支援活動東日本大震災チャリティー公演」 財団 35 周年を記念して、特別公演を実施。道内外の専門人形劇団を招待し、札幌の子どもたちや市民の方々に良質の劇を提供した。夏休み特別公演事業として、小学生を対象に身近なもので簡単にできる人形を作り、劇を発表するワークショップを実施した。	7/25～8/6 1,435 名 ・夏休みワークショップ 7/29 18 名
	やまびこ座、こぐま座プロデュース人形劇 『北海道の人形劇シリーズ Part1』 今年度はアイヌ文化や北海道の各地域に伝わる民話などを題材とし、子どもたちに北海道の歴史や文化への理解を深めてもらうことを目的として実施。北海道出身で、プラハを拠点に世界で活躍する沢則行氏を演出・美術に迎え、劇場が育成している高校生劇団とともに協働しながら作品創造に取り組んだ。	6/10～1/25 (やまびこ座) 57 名 (こぐま座) 648 名
	「やまびこ座プロデュース公演」 劇場主催講座「東区市民劇団」、「遊劇舎」、「劇☆やまびこ座 YOUTH」の参加者による、創作演劇の制作、上演。	4/9～3/22 1,212 名
	やまびこ座海外特別公演 ゴーゴリー作「外套」"The Overcoat" 現代人形劇の国際交流発展と普及を図ることを目的にブルガリアからクレドシアターを招いて公演を実施した。	10/14 186 名
	「人形劇フェスティバル 2015 年さっぽろ冬の祭典」 札幌人形劇協議会との共催事業。市内の人形劇団合同による人形劇の上演、及びワークショップを実施した。	2/7～15 1,656 名

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
その他事業	「福島県への継続文化支援活動 2014」 放射能被害を受けた子どもたちの心のケアやコミュニケーション交流、地域コミュニティの構築を目的に福島県内の保育園、公共施設を中心に人形劇等の上演を実施した。	7/3～3/2 会場：福島県 3,226 名
	「こどもの劇場通信」 やまびこ座・こぐま座両劇場の公演・事業等を主な内容に、広く市民に PR を行った。	隔月発行 12,000 部
	①「人形劇スタンプラリー」②「事業サポーター制度」 ③「物品販売事業」 観劇者の増加、リピーター確保を目的に、スタンプラリーを実施。活動協会事業「さっぽろスマイルキッズ」の一環として、事業サポーター制度を導入した。施設ボランティアを募集・育成。寄付金を募り、予算に反映した。 NPO 法人やともの会の協力を得て、手づくりおもちゃ、パペット人形、オリジナルグッズなどを販売した。	通年
	（公財）さっぽろ青少年女性活動協会 35 周年記念事業『いいだ人形劇フェスタ「北海道フェア」派遣交流事業』 日本最大の人形劇フェスティバルから札幌の劇団が招へいを受け、派遣交流事業として実施した。札幌の人形劇活動が認められた形であることを踏まえ、財団 35 周年記念事業として実施した。	8/6～12 1,352 名
	第 66 回さっぽろ雪まつりプロジェクト『雪の国のアリス』 札幌市、（公財）札幌市芸術文化財団との共催事業として大雪像を舞台にした人形劇オペラを制作・上演。「創造都市さっぽろ」ならではの新しい芸術の魅力を、世界に発信した。	8/20～2/11 10,352 名
	「さっぽろ人形浄瑠璃芝居あしり座記念公演プロジェクト」 20 周年となる「あしり座」の記念公演に向けた人形遣い、太夫、三味線、鳴り物の稽古と公演を行った。	9/6～2/22 1,566 名
	「人形劇派遣事業」 「さっぽろ水道フェスタ 2014」において、やまびこ座水道グループ（札幌市内人形劇合同）が人形劇「桃からうまれたウォッピー！！」他を上演した。	6/21、22 338 名
	「北海道ブロック技術職員研修会」（文化庁委託事業） 例年、文化庁の委託事業として舞台技術に関する専門的な研修を実施しており、今年度は人形浄瑠璃の舞台・照明・音響の仕込みと木偶舎・人形浄瑠璃芝居あしり座による上演を行った。	11/2～7 59 名

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
その他事業	「札幌市こどもの劇場やまびこ座 札幌市こども人形劇場こぐま座運営協議会」 有識者、市民の方々から劇場事業について意見をいただき、今後の運営に生かしていく機会とした。	2/12 8名
	「企画展示」 人形劇場の役割とその効果、施設紹介・活動内容などを広く市民に伝える機会として、企画展示を実施した。児童会館事業「げんキッズ」の会場で実施したことで、多くの親子連れに興味を持ってもらえる機会となった。	2/18 215名
	札幌市教育文化会館主催事業フィギュアアート・シアター『OKHOTSK（オホーツク）～終わりの楽園～』 札幌市教育文化会館と人形劇の共同制作に取り組み、人形製作、劇指導、共演を実施。	3/14～15 716名

②こぐま座

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
人材育成事業 (一般対象)	「初心者・経験者のための人形劇講座」 人形劇人の育成、公演活動の活性化を図ることを目的に実施。初心者講座は、人形劇の楽しさを体験する機会とし、経験者講座では、人形劇の質向上を図り、グループ活動の支援を行った。	4/24～10/13 (初心者) 519名 (経験者) 972名
	「腹話術初心者入門講座」 18歳以上の一般コース。腹話術の基本を学び、興味へのきっかけとした入門講座。腹話術愛好会「腹笑会」との共催事業。	10/29～31 61名
人材育成事業 (こども対象)	「こぐま座こども人形劇団」 市内の小学3年生から6年生を対象に、人形劇をとおして、様々な表現活動を展開。子どもたちならではの作品づくりを行った。	5/28～3/1 771名
	「こぐま座パペットユーススクール」 人形劇スクール。中高生の受入れの場として開講し、中高生劇団の育成を目指した。	5/20～3/21 527名
公演事業	①「こぐま座冬の特別公演人形芝居燕屋」 ②「こぐま座春の特別公演糸あやつり人形劇団みのむし」 こども人形劇舞台祭典に合わせて、人形芝居燕屋（長野県：専門劇団）、糸あやつり人形劇団みのむし（京都府：専門劇団）による人形劇公演を実施した。	①2/1 81名 ②3/29 174名

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
中島児童 会館協働事業	「中島児童会館協働事業『開館記念祭～かもくま祭』」	7/6
	中島児童会館との協働事業。7月の開館日を記念し、普段両施設を利用している団体や個人、ボランティアスタッフの協力のもと、市民を対象に2施設の特色を生かした祭りを行った。	895名
	①「あそびの劇場《冬の陣》」（ごっこあそびとワークリー）（26名） ②「初心者のための読み語り入門講座」（146名）	①1/15 ②10/31～12/11
その他事業	①「人形劇公演観劇スタンプラリー」	①通年 8,222名
	②「こぐま座利用者懇談会」	②24名
	③「こぐま座利用者説明会」	③24名



平成26年度 札幌市こども劇場利用状況報告

■こどもの劇場「やまびこ座」

【利用状況】

区 分	件 数 (件)	人数(人)	
ホール	750	28,483	室利用総人数 47,809
会議室	419	3,196	
研修室	555	7,848	
美術工作室	570	8,282	
ロビー・展示室・図書コーナー	—	8,493	
研修・見学	—	250	
総 利 用	2,294	56,552	

利用件数（前年度 2,316件・前年比99.1%）
利用人数（前年度 56,307人・前年比100.4%）

【ホール利用内訳】

観劇者数	無料(人)	1,232
	招待(人)	1,213
	有料(人)	15,118
	合計(人) … (a)	17,563
出演者の数(含むリハーサル)(人)	… (b)	11,464
出演者観劇者総数(人)	… (a+b)	29,027
上演回数(回)		205
上演日数(日)		133
仕込み・リハーサル・研修日数(日)		166
上演1回あたりの観劇者数(人)		86

■こども人形劇場「こぐま座」

【利用状況（ホール利用内訳）】

観劇者数	無料(人)	1,205
	招待(人)	612
	有料(人)	9,108
	合計(人) … (a)	10,925
出演者の数(含むリハーサル)	… (b)	5,290
出演者観劇者総数	… (a+b)	16,215
研修・見学	… (c)	1,278
利用者総数	… (a+b+c)	17,493
上演回数(回)		221
上演日数(日)		143
仕込み・リハーサル・研修日数(日)		237
上演1回あたりの観劇者数(人)		49.4

利用人数（前年度 15,835人・前年比102.4%）



(3) 企画事業課【指定管理事業：若者支援施設 5 館】

①若者支援総合センター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
自立支援事業	<p>「自立支援プログラム」</p> <p>昨年度同様 3 つのステップで就労に向けた目的を整理し、週 6 回程度プログラムを提供した。ステップ 1 は、定期的な外出機会をつくる段階（創作活動・軽運動・炊事）ステップ 2 は、自己や他者を認め就労準備をする段階（3 ヶ月間のグループトレーニング）ステップ 3 は、就職活動をすすめる段階（職場体験・就活指導）を実施。いずれも参加者の現況に則した活動になるよう、内容の微調整を行いながらプログラムを遂行した。1 か月平均 474 名の利用。（前年度比 149%）</p>	<p>通年実施</p> <p>延べ参加人数： 5,692 名</p>
受託事業	<p>「地域若者サポートステーション事業」</p> <p>15 歳～39 歳までの若年無業者およびその家族を対象にキャリア相談、ハローワーク等への誘導を実施。学校中退者やそのリスクを抱えた生徒への支援を進める学校連携事業も展開した。</p> <p>平成 26 年度からは「サポステ卒業生ステップアップ事業」を受託し、進路決定を果たした若者に対して、就労継続、キャリアアップを目的とした継続相談を実施した。</p>	<p>通年実施</p> <p>（開所：月曜日～土曜日 10:00～18:00）</p>

②アカシア若者活動センター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
交流促進事業	<p>「YOUTH CUP バスケットボール大会」</p> <p>通年で実行委員会を組織し、全 4 回の大会の企画運営を行った。より幅広い層の団体とともに大会を行うために、若者と様々な形式の大会について検討し、試行した。同種のコミュニティにおいては一定の知名度を得る大会に成長した。</p>	<p>5/25、7/13、 9/28、11/30</p> <p>819 名</p> <p>ほか月 1 回の 実行委員会</p>
	<p>「高校生対象マイプロデュース事業『SAN☆LIVE』」</p> <p>企画運営に至るプロセスを通して「分かち合い、達成感」「成功体験」を得る事業として実施。異なる境遇（学校、全日、定時制）の学生が館内をライブ会場に作り変え、来場者参加型のライブを実施。高校生同士の交流促進としての効果と、企画運営を担ったことによる成長が多く見られ、今後、より多くの高校生を巻き込める可能性がある事業である。</p>	<p>7/2～10/12</p> <p>259 名</p>

③ポプラ若者活動センター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
社会参加促進事業	<p>「地域活動ネットワーク構築 地域アプローチ」</p> <p>白石地域の店舗情報を取材、紙面化し、地域の活性化および若者の交流・社会参加を促進した。</p> <p>・白石 MAP プロジェクト（2号・3号発行）</p>	<p>2号製作期間 6/27～9/30 49名</p> <p>3号製作期間 10/1～3/31 43名</p>
	<p>「社会参加促進講座 街づくり人材育成講座」</p> <p>札幌を代表する国際的イベント「さっぽろ雪まつり・つどいむ会場」において、次世代を担う若者が運営スタッフとして協力し、さらに会場を盛り上げるべく様々な企画を実施し、若者が容易に社会参画活動できる環境づくりを目指した。</p>	<p>実行委員会 11月～2月 578名</p>

④豊平若者活動センター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
交流促進事業	<p>合同文化芸術祭「M i x A r t 2015」</p> <p>既存団体と新規参加者の交流促進に重点を置き、舞台芸術のネットワークの活性化・新規形成を目指した。</p>	<p>3/14～3/15 1085名</p>
	<p>「その他交流促進事業」</p> <p>若者同士が交流を図る機会を提供した。</p> <p>とよb(フラット)ステーション、とよひらっぴーフェスティバル 他</p>	<p>通年 274名</p>

⑤宮の沢若者活動センター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
社会参加促進事業	<p>複合施設の連携事業「宮の沢若者活動センター祭 2014」</p> <p>札幌市生涯学習総合センター4施設で連携して開催。事業をとおして地域交流および世代間交流を図った。実行委員会による若者の主体的な活動を促進し、ボランティア育成の場とした。</p>	<p>8/23、24 10,034名</p>
交流促進事業	<p>「YOUTH ART2014 芸術屋台村」</p> <p>若者の芸術活動の活性化、成果発表の場や自分自身の才能の可能性を広げ自己表現の楽しさを実感する機会とした。</p> <p>ステージブース、出展ブース、ギャラリーブース他</p>	<p>9/23 666名</p>

平成26年度 若者支援施設利用状

内 訳	総合	アカシア	豊平	宮の沢	ポプラ	施設合計
自立支援事業	14,607	0	0	0	0	14,607
若者	10,502	0	0	0	0	10,502
一般	4,105	0	0	0	0	4,105
交流促進事業	2,371	2,249	2,558	2,142	831	10,151
若者	2,353	2,099	2,293	1,655	676	9,076
一般	18	150	265	487	155	1,075
社会参加事業	200	3,665	2,057	10,465	1,434	17,821
若者	172	2,274	1,662	7,878	1,341	13,327
一般	28	1,391	395	2,587	93	4,494
ロビー事業	11,775	6,870	9,800	14,725	5,436	48,606
若者	11,064	6,215	8,229	13,069	4,809	43,386
一般	711	655	1,571	1,656	627	5,220
貸室利用	25,534	45,389	29,278	62,232	11,158	173,591
若者	21,689	36,541	24,333	31,838	8,471	122,872
一般	3,845	8,848	4,945	30,394	2,687	50,719
合 計	54,487	58,173	43,693	89,564	18,859	264,776
若者	45,780	47,129	36,517	54,440	15,297	199,163
一般	8,707	11,044	7,176	35,124	3,562	65,613

【各施設前年度比】 [126.3%] [106.9%] [112.9%] [89.7%] [143.4%]



(4) 企画事業課【地域活動等事業：野外活動系事業、自主運営施設：滝野自然学園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	「たきの森のようちえん」 2歳から就学前の幼児とその保護者を対象とした自然体験活動を実施。子どもたちが自然と人との関わりをとおり、優しさと生きる強さを育んだ。	通年 1,173名
	「たきの森のがっこう」 小学生を対象とした自然体験活動プログラム。自然の中での活動をとおり、自然の営みや面白さに触れ、人と自然との密接なかかわりを体験的に学ぶ機会となる事業を実施した。	通年 213名
	「カヌーキャンプ」 小学校高学年を対象とした自然体験事業。人と自然の関係性の理解、より高度な協働体験を図った。	7/28～30 (2泊3日) 36名
	「リトルキャンプ」 自然体験活動プログラムをとおり、新しい仲間との出会い・協力・目的達成までの過程で自立心や協調性、社会性を育む事業として実施した。	8月(2泊3日) 3月(1泊2日) 参加人数：134名
	「お父さんと過ごす週末キャンプ」 小学生の児童と父親を対象とした週末宿泊型の自然体験活動。日常的に希薄となりがちな親子間のつながりや子どもを取り巻く生活環境を見つめなおす機会として実施した。	7月、1月2期実施(1泊2日) 54名
職員派遣事業	【その他指導事業】 自然体験活動やレクリエーション、各種指導者の養成、リーダー養成等を目的とした企業や団体の業務依頼のもと、実技指導、講義、講演活動をとおり、よりよい社会作りに寄与する。 ・幼保小連携自然体験活動なかよしキャンプ ・さぼーとさっぼろ親子レク ・北海道エコアクション「グリーンスクール」・「ホワイトスクール」 ・市民・留学生交流事業・歩くスキー出前授業	通年 966名
施設管理運営事業	利用促進、価値向上を目的に長期的な運営計画を立て、「人と人、人と自然を深くつなげる」をテーマに運営を行った。	通年 98団体 6,138名

【平成26年度 滝野自然学園利用状況】

利用人数

	延べ人数	実人数
合計	6,138	3,850

前年度比	96.1%	102.6%
------	-------	--------

利用団体数

	団体数	うち主催事業
合計	98	32

前年度比	83.5%	78.0%
------	-------	-------

(5) 野外活動課【指定管理事業：北方自然教育園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	「農業体験事業」 市立幼稚園・学校の子どもたちに農業体験の機会を通じて自然環境や食べ物大切さを理解していただく機会として実施した。	5月～12月 5,889名 延べ146校
	「教材用生物の提供」 昆虫や植物の生態を理解する機会の提供を目的に市立幼稚園・学校向けに教材用生物（イネ・コオロギ・カイコ他）を提供。	6月 211名（教員） 延べ693校
	「自然体験学習機会の提供」 自然素材を活用したものづくり事業（工作教室などの創作活動）や季節、催事にあわせた事業を実施し利用促進を図った。	5月～1月 152組 567名
地域連携事業	「地域住民の自主的な活動及び交流支援事業（自然ふれあい事業、市民ボランティア事業、フォーラム等）」 ①市民ボランティア事業 ②教育機関支援事業 ③ミニフォーラム 札幌の自然環境に関する事業を通じて近隣住民に施設理解と事業理解を図ることを目的に実施した。	①通年 171名 ②10月 25名 ③2月 46名
学習支援事業	「自然観察、飼育栽培に関する研修事業」 設置目的を達成するために必要な業務として、自然環境学習・研修を実施し、学習活動の推進を図った。	6～3月 147名
	「自然体験や展示に関する相談業務」 自然体験や展示に関する各種相談に対応した。	通年随時 相談件数：87件
その他事業	「使用承認等に関する業務（利用料金等）」 北方自然教育園の利用に関しての業務を実施した。 ①貸室利用の受付 ②学習館入館展示事業に関する受付	①通年随時 全8件 ②通年随時 629件 1,212名

平成26年度 札幌市北方自然教育園 利用状況一覧表

月	施設利用							体験農場										自然 体験 学習会		自然 ふれあい 事業		その他事業等 (ボランティア等)		事業		合計		
	学校・園		一般			小計		学校・園						小計														
								畑		水田		梨				サクランボ												
	校数	人数	団体	個人	人数計	団体	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数	組数	人数	組数	人数	組数	人数	組数	人数	組数 (団体)	人数	
4	0	0	0	0	262	262	0	262	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	269			
5	6	342	3	55	557	612	9	954	6	342	0	0	0	0	0	6	342	24	104	1	2	0	16	25	122	40	1,418	
6	30	1,890	5	108	356	464	35	2,354	8	383	22	1,507	0	0	0	30	1,890	10	32	1	1	0	245	11	278	76	4,522	
7	14	731	3	117	905	1,022	17	1,753	2	87	0	0	0	12	644	14	731	23	89	16	30	2	21	41	140	72	2,624	
8	2	41	2	61	1,060	1,121	4	1,162	4	176	0	0	0	0	0	4	176	47	179	0	0	3	73	50	252	58	1,590	
9	20	1,051	4	89	519	608	24	1,659	16	699	11	588	0	0	0	27	1,287	12	44	0	0	0	13	12	57	63	3,003	
10	19	1,338	6	265	736	1,001	25	2,339	0	0	11	931	9	440	0	20	1,371	0	0	7	11	0	18	7	29	52	3,739	
11	29	125	2	62	274	336	31	461	0	0	28	58	0	0	0	28	58	12	34	3	3	0	21	15	58	74	577	
12	11	19	3	60	101	161	14	180	0	0	11	19	0	0	0	11	19	21	75	0	0	0	19	21	94	46	293	
1	6	15	0	0	111	111	6	126	0	0	5	14	0	0	0	5	14	3	10	4	13	2	11	9	34	20	174	
2	1	1	0	0	123	123	1	124	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	12	35	0	13	12	48	14	173	
3	0	0	3	158	136	294	3	294	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	7	9	33	14	40	17	334	
合計	138	5,553	31	975	5,140	6,115	169	11,668	36	1,687	89	3,118	9	440	12	644	146	5,889	152	567	49	102	16	490	217	1,152	467	18,716

※利用団体(前年度比105.8%) 利用人数(前年度比105.0%) 事業参加人数(97.8%)

(6) 野外活動課【指定管理事業：定山溪自然の村】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	<p>「キャンプ初心者講習会 他」</p> <p>施設利用者を対象に「薪割り」「テンティング」「火おこし」「アウトドア・クッキング講習」等、キャンプの基本的な体験会を実施。キャンパーのキャンプ技術向上を支援した。</p> <p>【全8事業／キャンプ初心者講習会、ファミリーキャンプ・デイキャンプ、初めてのお泊りキャンプ、キャンプガイド&サポート事業、大人のためのプレミアムキャンプ、シルバー自然散策、シルバーくつろぎ倶楽部、野外活動支援】</p>	<p>通年</p> <p>2,000 名</p> <p>20 回</p>
	<p>「期間限定プログラム 他」</p> <p>樹液採取体験や流しソーメン体験など季節感を楽しむことができるテーマを設定し、定期的な野外活動を提案する機会として実施した。プログラム立案、運営をボランティアが主体となって活躍できるよう支援し、自然体験活動を通じた市民同士の交流の場を提供した。</p> <p>【全6事業／キャンプファイヤー、期間限定プログラム、フルーツ・スイーツ倶楽部、親子の自然遊び、自然アート、クッキング交流会】</p>	<p>週末及び夏休み</p> <p>他</p> <p>4,454 名</p>
地域連携事業	<p>「地域連携事業 他」</p> <p>南区の地域資源、人材を活用した「貝化石発見ツアー」や運営代表者会議との協働事業「シーニックバイウェイ」等、地域の活性化・周辺地域の魅力を広く紹介することを目的に実施した。</p> <p>各施設のハード、ソフト両面の専門性を生かした事業となった。</p> <p>【全2事業／地域連携事業、公的施設連携事業】</p>	<p>通年、随時実施</p> <p>503 名</p>
人材育成事業	<p>「ボランティア事業 他」</p> <p>各種自然体験活動をサポートするボランティアスタッフの育成と活動援助を実施。自然愛好家等の人材を生かすとともに、ボランティア自身の自己実現を支援した。</p> <p>【全5事業／アクティビティ・イベント・天文ガイドボランティア、ボランティア自主研修会、森もりレンジャー】</p>	<p>通年、随時実施</p> <p>659 名</p> <p>9 回</p>
PR事業	<p>「自然体験プログラムの出前事業」</p> <p><ビジターコーナー></p> <p>共有スペースでの各種自然情報の提供等、定山溪地区の恵まれた自然環境と施設利用PRを図ることを目的に実施した。</p>	<p>通年・随時実施</p>

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
プログラム開発 ・研究事業	「調査・研究事業／広報・情報収集／試行・提案事業」 利用者アンケート調査により、意見要望等を集約し、より良い施設運営に取り組むとともに、公的機関・民間報道機関等への情報提供やホームページやSNS等を活用した施設広報等を実施。	通年・随時実施
	「持込支援事業」 青年グループ、市民サークル等からの持込事業を募集し、実現に向けた助言、指導を実施。手打ちそばサークルと協同実施したそば打ち体験会では、サークル員、参加者双方にとって実りある活動を提供することができた。	通年・随時実施 523名
ガイド プログラム事業	「ハンゴウ体験会 他」 ナタを使用した薪割り・火おこし体験などグループで協力し、火や資源の大切さを伝えるとともに野外活動の楽しさ、興味・関心を深めてもらえるよう支援した。 【全7事業／ハンゴウ体験会、焚火を楽しむ会、暖炉・絵本の会、夜間プログラム、自然遊びコーナー、森のガイドウォーク、遊々の森アドベンチャー】	通年・随時実施 4,683名
セルフ プログラム事業	「石窯料理体験 他」 万能石窯を活用したアウトドア料理体験を提供した。参加グループが共同体験を通して交流を図った。 【全8事業／石窯料理体験、わくわくラリー、森の迷路、アウトドア・クッキング、ドラム缶風呂体験、遊歩道クイズ、アドベンチャーエリア&ミュージアムエリア、バーベキュー体験】	通年・随時実施 3,275名

【平成26年度 定山溪自然の村施設利用状況】

区分	件数(件)	人数(人)
コテージ	1,934	7,697
テントハウス	760	3,411
テントサイト	1,438	4,134
小計	4,132	15,242
見学者	-	566
利用人数合計(小計+見学者)	-	15,808

※ 利用件数(前年度4,194件・前年度比98.5%)
利用人数(前年度16,553人・前年度比95.5%)



(7) 野外活動課【指定管理事業：青少年山の家】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	<p>「防災キャンプ」</p> <p>災害が起きた際のリスクをどう切り抜けることができるか、野外活動をとおして防災の必要性を伝えることを目的に実施。『「衣・食・住」をテーマに、1回目「サバイバルクッキング」、2回目「小屋作り」、3回目「生活体験、救急法」を行った。参加者同士で協力して課題に取り組み、自ら考え行動する姿が見られた。また、時間を重ねるにつれて、災害の状況を想定しながら活動していた。</p>	<p>7月～3月</p> <p>(日帰り2回、宿泊1回)</p> <p>60名</p>
	<p>「自然観察ハイキング」</p> <p>子どもから大人までを対象とした自然観察の事業をボランティアスタッフとの協働で年4回実施。季節ごとに変化を見せる草花や樹木、野鳥などの観察をとおし、自然とふれあう機会を提案できた。大人向けコースは、継続して参加されている方が多く、参加者間で交流が深められている様子が見られた。</p>	<p>5月～2月</p> <p>(日帰り4回)</p> <p>155名</p>
	<p>「陶芸体験会」</p> <p>子どもから大人までを対象とした陶芸体験の事業を、ボランティアスタッフと協働で年2回実施。ボランティアスタッフの丁寧な指導により、もの作りの楽しさや素材の持つ特性、自然とのつながりを学ぶ機会となり参加者の満足度も高かった。</p>	<p>通年</p> <p>(日帰り2回)</p> <p>13名</p>
人材育成事業	<p>「ボランティアスタッフ活動」</p> <p>各種ボランティア活動の支援や活動機会の提供を行った。主催事業や利用団体の要望に応じて、自然観察や天文等の指導を実施した。</p>	<p>通年37回</p> <p>131名</p>
	<p>「自然体験活動ボランティア養成講習会」</p> <p>大学生、専門学校生を主たる対象とし、子どもたちの自然体験活動を支援するボランティア指導者の養成を目的に、野外炊事、テント設営、自然観察などを実施した。その中で、季節感を取り入れたプログラム展開を行ったことで、技術的な面はもちろんのこと子どもたちとの関わりについて一定の成果を得られた。</p>	<p>通年5回</p> <p>7名</p>
団体支援事業	<p>「利用支援事業」</p> <p>北海道教育大学との連携による、冬期アクティビティの開発(歩くスキー)は、体験した学校側からも好評を得ており、今後の連携に期待が持てる内容となった。</p>	<p>あいの里西小5年生</p> <p>70名</p>

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
団体支援事業	<p>「利用促進事業」</p> <p>野外活動拠点施設として「キャンプのちから」を発行し、活動情報のPRを行った。</p>	市内小学校 202 校 に配布
施設管理運営事業	<p>「青少年山の家管理業務」</p> <p>大規模改修工事が終了し、更新された機器類に不具合もなく、年明けの利用受入れは順調に行われた。</p> <p>9月の大雨において、災害時には山の家がかなり高い確率で孤立することから、ライフラインの確保に重点を置き、防災用品の充実を図るとともに、外部との連携の重要性を確認できた。</p>	通年
	<p>「青少年山の家貸室事業、物品貸出等」</p> <p>歩くスキーの使用中の破損がかなり見られたことから、担当局と相談し、破損の多いタイプから順次、入れ替えていただくこととなった。また、大都市でありながら野生動物を身近に感じることができる札幌市に愛着を深めてもらう機会の提供として、ヒグマトランクキットのプログラムを作製、試行した。参加者は、非日常の体験活動に興味を示していた。</p>	通年

【平成26年度 青少年山の家利用状況】

項目		合計		
主催者		団体数	実利用者数	延利用者数
学校	幼稚園等	35	1,297	2,309
	小学校	376	23,261	39,071
	中学校	69	4,504	6,329
	高校	16	1,027	2,577
	盲聾養護学校	0	0	0
	専門学校	4	203	459
	大学	3	53	98
	その他の学校	2	51	97
青少年団体	少年団体	66	3,235	6,632
	青年団体	10	509	1,100
指導者団体	学校教育関係	7	209	546
	社会教育関係	0	0	0
親子		15	143	276
官公庁		33	2,208	4,743
その他		77	2,478	4,437
主催事業		28	1,068	1,223
計		741	40,246	69,897

※総利用人数(前年度比113.5%)

(8) 市民参画課【指定管理事業：札幌エルプラザ公共 4 施設】

①札幌市男女共同参画センター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
活動支援事業	①「座談会：アラフォー働く女子のための“母重座談会”」 ②「共催事業：19 事業、協力事業 12 事業」 男女共同参画に関する諸分野についての学習機会の提供を目的に座談会および共催事業を実施した。	①3/16 7 名 ②通年（全 69 回） 2,791 名
	「コワーキングスペース」 起業を含めた柔軟な働き方を支援することを目的にコワーキングスペースの運用を実施した。	6/12～3/31 1,393 名
	「働く女性のためのキャリア支援事業」 起業を含めた柔軟な働き方を支援することを目的にセミナーや講座を実施した。また働く女性のコミュニティ形成を行った。	4/24～3/28 541 名 4/1～3/31 43 名 （相談事業）
	「日本女性会議 2014 札幌」 札幌市が招致した男女共同参画に関する国内最大級のイベント「日本女性会議」の企画・広報を担当した。	10/17～10/19（当日） 2381 名
	「健康支援事業」 不妊当事者同士の交流の場として、妊娠を望むすべての人に広く生殖の正しい知識を得る機会として講演、おしゃべり会を実施。	11/9 37 名
人材育成事業	「子ども・若者への男女共同啓発事業」 将来の男女共同参画の担い手である子どもや青年層に対して、男女共同参画の啓発を行うことを目的に実施した。	4/18～3/20 （全 24 回） 174 名
	「誰もが子育てしやすい環境づくり事業」 子育て中の女性や男性が性別役割分担意識から解放されるために必要な気づきを促すことを目的に実施した。 （①保育者人材育成事業、②トークセッション「今、必要とされる子育てを支えるチカラ」③主催事業における託児）	①②9/12～1/16（全 5 回）105 名 ③5/23～3/14（全 24 回）109 名
	「女性に対する暴力をなくすための事業」 DVの実態や被害者が陥りやすい心理状況を学び、どのように手を差し伸べることができるのかを考える講演会や暴力根絶を目的に DV や性暴力などの被害者や遺族、支援者の思いが表現された T シャツを展示した。 ①女性に対する暴力をなくすための事業 講演会 ②「サッポロ・クローズラインプロジェクト」	①11/18 45 名 ②9/6～11/28
情報発信事業	男女共同参画情報誌『りぷるさっぽろ』の発行 男女共同参画社会の実現への意識の浸透と、男女共同参画センターの機能の周知や情報提供等を目的に情報誌を発行した。	7 月、10 月、3 月 各号 5,000 部

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
情報発信事業	「ホームページの管理等インターネット活用事業」	通年 119,070 件（閲覧数）
	「男女共同ワークショップ事業」 男女共同参画の意識を高めることを目的に、民間企業・市民グループなどへ出向いて出張講座を実施。	8/12～2/4（全 3 回） 93 名
	「キャンペーン型情報発信」 男女共同参画に関する価値やメッセージを市民に伝えるとともに、身近な話題として議論喚起が可能な事業として実施。 ①札幌市男女共同参画センター啓発パネル展示 ②気にしてみると気になる言葉のパネル展	4/29～11/15（全 7 回）
	「国際交流支援事業」 国際的な情報を持ち多様な事業展開を図るための起業セミナーを在札幌米国総領事館と共催で実施した。	9/9～3/26（全 2 回） 73 名

②札幌市市民活動サポートセンター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
活動支援事業	「スタート支援、インキュベーション事業」 市民活動（NPO）に係る基礎的な理解および活動をはじめのきっかけづくりとなる機会を提供した。	4/24、7/30、10/30、 1/25 80 名
	「市民活動団体フォーラム」 市民活動に触れるきっかけと関心を高めることを目的に実施。 ①まちを変える～NPO に必要な力 ②東北の未来を創るため 子どもたちのためにできること	3/19、3/28 36 名
人材育成事業	「市民活動相談」 NPO 活動実践者を相談員とし、市民や市民活動団体のもつ疑問や課題に実践的かつ即時的な解決を図った。また、税理士を相談員とした税務・会計相談を行い市民活動団体の運営支援を行った。	4/1～3/31（194 回） 654 件
	「相談員研修」 相談事例研究など、よりの確な相談対応のための学習を行い、職員および相談員の専門性を高めた。	8/18、3/20 延べ 18 名
	「組織基盤強化事業」 「会議」「企画事業」「会計・資金」等をテーマとした学習機会を提供し市民活動団体の実務能力の向上を図った。	6/14～1/28（6 回） 128 名
	「サロン事業」 協働の基礎となる市民活動団体の交流と情報交換の機会を提供。	4/22～2/20（7 回） 275 名

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
人材育成事業	共感・対話力アップ事業「ひろがるフォーラム～NPOに必要な力」 「対話」「協働」をテーマとした集会事業を行うことにより、団体の枠を超えた交流と協働を創出することを目的に実施した。	3/19 26名
情報発信事業	H P 『さっぽろまちづくり総合情報ポータル』 市民活動の周知、参加促進のためにホームページを運営し、市民や市民活動団体に有益な情報提供を行った。	通年
	「市民活動情報誌の発行」 市民活動の周知、参加促進のために情報誌を市民とともに発行。	6/27～2/27 (3回)
	①「地下歩行空間広報」 ②NPO との出会い創出事業「マチなか×NPO」 市民活動団体の事業について広く周知するための機会を提供。	通年 延べ 1234 団体

③札幌市環境プラザ

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
活動支援事業	「企業と学校のマッチング事業」 環境教育をサポートする企業と学校とのマッチングを企画した。	10月～1月 対象企業：9社
	「環境活動団体の支援」 環境保全のための活動を行っている市民団体の登録を行い市内の環境活動団体の把握に努めた。また、協働での事業実施を行った。 (エコ育広場 2014、環境経営無料相談会「エコアクション 21 説明会」、石狩浜の花ごよみ 2013、「札幌市エネルギービジョン(案)」パブコメ・ワークショップ、他)	通年 1,218 名、19 事業 (共催 2、協力 17)
	「環境教育教材の貸出業務」 環境プラザが保有している教材の貸し出しをとおして、環境保全教育の促進を図った。	通年 140 件
人材育成事業	こどもエコクラブ「くいしんぼう探検隊～はちみつのおいしいヒミツを調査せよ～」 札幌の市街地で行っている蜂蜜づくりに触れ、食や札幌の自然環境への関心を高める活動を行った。	5/24～9/20 (10回) 61 名
	「こどもエコクラブ交流会」 季節にあわせて、市内にあるこどもエコクラブの交流会を実施。	8/5～12/20 (3回) 延べ 81 名、11 団体
	「環境プラザがやってきた (アウトリーチ事業)」 市内に広く啓発を図ることを目的に、市内の環境関連イベントや関連施設へ出向き、遊びをとおして環境問題に気付く機会として実施した。	6/21～2/7 (8回) 2,874 名

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
人材育成事業	「教育機関への学習支援」 ①授業の一環として来館する児童、生徒らの環境保全教育に関する学習対応を行った。②中・高等学校職場体験学習を受け入れた。また、見学対応や環境保全に関するポスター発表を行った。③幌北小学校（3年生）へビオトープを利用した出前授業を実施した。	通年（21件） 参加人数：591名
	「展示物学習支援業務」	通年 35,898名
	①「環境教育リーダー派遣制度」・②「全体会」 ③「環境保全アドバイザー派遣制度」・④「全体会」 ①市内での自然観察会や環境教育の一環として、環境教育リーダーを派遣した。 ③環境保全活動に取り組む市民団体等が主催する講演会等の札幌市環境保全アドバイザーを派遣した。 ②④リーダー・アドバイザー、札幌市、環境プラザスタッフが情報交換を行った。（平成25年度派遣状況報告、派遣制度について等）	①通年（128件） 6,303名 ②5/1 47名 ③通年（39件） 2,136名 ④11/19 4名
	「ESD 促進集会事業」 ESD 促進のために、環境保全を始め北海道の文化を取り入れ、時代のニーズに合わせた内容での講座を企画、実施した。	11/16、12/5 延べ56名
	「環境教育プログラム・トライアル事業」 北海道環境財団の地球温暖化ふせぎ隊との協働事業として、子ども向けのプログラム提供を行った。	4/26～2/28 延べ251名
	「環境プラザオリジナルプログラムの汎用化」 一般の方々が手軽に環境教育を実践できるように、過去に開発した中から「エネルギーをたどれ」を再構築した。学校のクラスで、グループ活動ができるように想定して作成した。	3月末
地域連携事業	「環境関連施設等連携事業」 札幌市内の環境関連施設等とリソースを活用した連携を図った。 （環境中間支援会議・北海道、CISE ネットワーク、生物多様性ネットワーク、北海道大学大学院地球環境科学研究院、他）	通年（5件） 438名
情報発信事業	「講師派遣パンフ・ポスター作成業務」 環境教育リーダーおよび環境保全アドバイザー派遣制度を周知するためのパンフレットおよびポスターを作成した。	3月発行
	教師対象研修「アウトドア環境教育～身近な自然やビオトープを使った学習づくり～」 身近な自然を題材に、主体的な学びにつなげる学習づくりのきっかけとして、また参加者や環境プラザとのネットワークづくりを目的に実施した。	8/18 18名

④情報センター

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
活動支援事業	「企業の社会貢献活動推進事業」 HIV・エイズに対する偏見や差別をなくすためのレッドリボン運動、子どもへの虐待をなくすためのオレンジリボン運動のリーフレット、パネル展示を行った。	日時：3/16～28
人材育成事業	①「ブックトーク」 ②「読書会」 ③「ヒューマンライブラリ事業」 4分野の情報に対する認識を深めることを目的に、テーマに応じた情報交換会やビブリオバトルを実施した。	①7/19、11/25 44名 ②9/6 17名 ③1/26、3/25 24名
	「情報交流サロン」 さまざまな世代が「子育て」をテーマに交流および情報交換を図る場を設けることで、世代を超えた人とのつながりを生み出すとともに、「子育て」についての新たな気づきを得る機会を提供することを目的に実施した。	12/20、1/26、2/18、 2/26 90名
	「まちづくり活動座談会」 市民活動団体等が、自らの活動を発信することでまちづくり活動への意識醸成を図ることを目的に実施した。 (日本の伝統芸能を北海道に 人形浄瑠璃の伝承、若者×大人 未来を創る若者支援のカタチ、北海道から東北へ これまでの4年とこれから)	9/21、11/25、1/17 60名
情報発信事業	「図書紹介、図書等貸出・貸出業務」 テーマを設け、男女共同参画、消費生活、市民活動、環境保全の4分野に関連する図書や視聴覚資料を紹介した。また、移動書架やパネル等を用い、見やすく手に取りやすいレイアウトを工夫した。	通年 貸出冊数：11,147冊



⑤札幌エルプラザ公共施設（共通）

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
賑わい創出事業	「北8条アマとホップのフラワーロード事業」 札幌エルプラザ前花壇及び施設周辺花壇に「アマ」と「ホップ」および1年草の植栽を行い、その後の手入れを実施した。	5/22～11月上旬 47名
	「キャンドルナイト事業」 日常を省み環境行動を楽しみながら取り組むことを多くの方が考えるためのきっかけを提供した。	6/13～6/21 182名
	「スノー・アイスクャンドル大作戦」 近隣の保育園や市民活動団体として学生等の協力も得たことで、多様な市民が集まる場作りのきっかけとなった。	2/4～2/11 274名
	「エルプラまつり」 活動団体による「活動発表展」をはじめ、各施設の出展、鉄西まちづくり学生推進委員企画、北区アートプロジェクトを実施し、市民活動団体同士、一般市民・地域・企業・行政等と交流を図った。	9/6 8,868名

【平成26年度 エルプラザ公共4施設利用状況】

区分		施設利用	相談事業	視察・見学	展示	総合学習	施設外事業	合計
男女共同参画センター	件数	32,325	-	4	-	-	6	32,335
	人数	373,897	829	34	-	-	728	375,488
消費者センター	件数	3,749	-	5	-	-	-	3,754
	人数	44,568	12,410	105	-	-	-	57,083
市民活動サポートセンター	件数	19,018	-	7	-	-	6	19,031
	人数	68,361	654	61	-	-	1,653	70,729
環境プラザ	件数	2,307	-	38	-	-	22	2,367
	人数	27,652	85	1,309	33,456	1,111	3,233	66,846
合計	件数	57,399	-	54	-	-	34	57,487
	人数	514,478	13,978	1,509	33,456	1,111	5,614	570,146

情報センター来館者数	人数	96,860
------------	----	--------

平成26年度札幌エルプラザ公共4施設総利用者数	人数	667,006	※総利用者数(前年度比 91.2%) ※情報センター来館者数(前年度比 97.0%)
-------------------------	----	---------	---



(9) 市民参画課【受託事業：市民活動プラザ星園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
人材育成事業	「協力団体との共催事業」 協力団体の専門性を活用し、市民まちづくり活動団体を目指す団体の専門性を高めるための長期ビジョンに立った人材を育成した。 (GREENDAY2014、企画事業課連携 コミュニティワーカー養成事業)	5/10、11 175名
	若者団体の受入及び育成 「街創造スタッフ養成講座」 大通街づくり会社と協同で「ストリートパフォーマンスカーニバル『だい・どん・でん』」の企画・立案をとおしての若者人材育成を行った。	4/1～3/31 (108回) 771名
連携支援事業	「オープンスペース活用」 オープンスペースを活用し星園利用者を対象とした交流事業として実施した。また、交流事業で調理・提供をとおし、就労体験の場としても活用した。(星園カフェ、コミュニティサロンたまてばこ、共働サービスたねや出張販売)	4月～3月(40回) 761名
	「地域向けイベントの協働運営」 児童会館の子どもたちが市民活動を体験すること、および入居団体、市民、相互の活動理解、連携のきっかけづくりを目的として、地域向けイベントを実施した。 (星園まつり 2014)	10/11 483名
	「地域事業への参加及び紹介」 入居団体と共に清掃活動に参加し、地域との連携を深める。 (地域清掃活動)	4/13～3/29(4回) 34名

【平成26年度 利用状況】

	活動スペース			貸室							合計
	入居団体	管理団体	小計(A)	会議室大	会議室中	会議室小	活動室	特別会議室	管理団体スペース	小計(B)	
件数	—	137	137	98	158	190	379	102	137	1,064	1,201
人数	53,151	880	54,031	5,885	5,243	1,961	14,771	1,311	880	30,051	84,082

※利用件数(前年度比112.9%) 利用人数(前年度比108.0%)



(10) 企画事業課【地域活動等事業：自主事業、受託事業】

事業区分	事業名	時期・回数・参加人数等
企画提案事業	「さっぽろ水道フェスタ 2014」企画制作・実施業務	6/21～6/22 12,877 名
	「札幌市下水道科学館フェスタ」一部企画運営業務	9/6～9/7 10,281 名
	「だい・どん・でん！さっぽろパフォーマンスカーニバル 2014」物品レンタル・音響操作・会場管理業務	9/5～9/7
	円山動物園事業「ZOO ナイトキャンプ」	8/11～8/12 32 名
	「J I C E との連携事業（共催事業）」 「JENESYS プログラム」（インド訪日団）	5/29～6/2 48 名
受託型事業	「第 66 回さっぽろ雪まつり関連事業」	
	①さっぽろ雪まつり大雪像制作（大通 7 丁目会場）統括業務	①9/26～2/28
	②札幌市大通 7 丁目大雪像制作団指導業務	②11/17～2/8
	③つどーむ会場すべり台等制作・運営業務	③12/22～2/11
	④「わくわくタッピーランド」における雪像等の制作及び運営業務	④1/13～2/11
	「札幌国際芸術祭 2014 コロガル公園運営業務」	6/30～9/28 16,905 名
	前田森林公園フラワーアートウィーク「アートっていいね」企画運営業務	5/21～8/9 約 2,800 名
	「もいわ山関連事業」	
	①「第 3 回もいわ山ヒルクライムラン 531」運営業務	①5/11 387 名
	②「もいわ山体験学習プログラム」事業実施業務	②通年 2,978 名
	「洞爺湖・夏の冒険王」企画運営管理業務	7/30～7/31 30 名
	「子どもまちセン一日所長体験事業ワークショップ」	6/27～8/29 21 名
	「ミニさっぽろ 2014 関連事業」	
	①ミニさっぽろ 2014 実行委員会事務局	①通年 ②10/4～10/5
	②こどものまち「ミニさっぽろ 2014」事業指導・運営業務	3,228 名
	「創成川公園サンキューフェスティバル」事業運営業務	9/5～9/7
	札幌市中央卸売市場「消費拡大フェア」管理業務	9/21 約 33,000 名
	「水道記念館秋まつり 2014」運営補助業務	10/12～10/13 約 9,000 名
	「講師派遣・指導業務」	
	①札幌第一幼稚園運動会講師派遣業務	①6/22 約 500 名
	②札幌幼児保育専門学校講師派遣業務	②通年 10 名
	③発寒幼稚園体操教室講師派遣業務	③通年

事業区分	事業名	時期・回数・参加人数等
受託型 事業	「第9回とよひろおもしろスノーパーク」学生企画コーディネート業務	2/14 約 1,400 名
	「新さっぽろ冬まつり 2015」会場制作及び管理運営に係る指導員等の派遣業務	12/15～2/1
	「エコチル 100 号記念 エコチル祭 2014」ワークショップ運営業務	6/7～6/8 約 10,000 名
	「初夏の宝水ワイナリー バスツアー」一部運営業務	6/25 30 名
	「第 24 回 幌北ふるさと夏まつり」	7/26
	「さっぽろ花き市場まつり」縁日コーナー企画・運営業務	7/26 約 1,100 名
	「かんきょうみらいカップ 2014 サッカー部門一部運営業務」	7/12 約 200 名
	「第 21 回厚別区子どもまつり 巨大迷路の運営・指導業務」	9/7 約 1,700 名
	「もっとにっこり！鉄西秋祭りステージ設置及び PA 操作業務」	9/14
	「西区ウォームシェア in ちえりあ運営業務」	2/15 約 300 名
	「SORA こそだてフェスティバル 2014」遊びコーナー運営業務	12/13 約 4,000 名
	「子宮頸がん普及啓発ワークショップ」実施業務	6/23～3/10 約 120 名

■その他地域活動等事業（こども育成事業、若者支援自立支援事業）

事業区分	事業名	時期・回数・参加人数等
学習支援事業	まなびのサポート事業「遊學舎 まなべえ」 生活保護受給世帯の中学生を対象にした学習支援事業。今年度はじめて全市に会場を開設した事業である。前半は仲間作りを中心に、後半は受験も意識した取り組みとし、自尊感情の醸成と一人ひとりのレベルにあった対応を目指した。また、受験対策として、専門指導員を中心に面接の練習などを取り入れたことは参加者からも好評だった。また、学習支援サポーターの学生にとっても、将来の担い手の育成につながる双方向の事業である。	6 月～3 月 登録人数：215 名 学習支援サポーター登録：148 名
自立支援事業	「岩見沢地域若者サポートステーション」（厚生労働省受託事業） 前年度に比べ、大幅に予算が削減されたため、受託当初に描き、前年度に関係構築を図った学校連携や他期間との連携及びジョブトレーニングについては、人的配置も出来ないため、縮小せざるを得なくなった。しかしながら、岩見沢市を拠点として、滝川市、江別市にサテライトを設置し、定期的に出張相談を実施した。	相談件数 789 件 延べ来所者数 700 名 新規受付カード数 96 名 就労等進路決定者数 47 名

6. 重要な契約に関する事項

(1) 地域活動等事業

単位：千円

契 約 の 概 要 (業務名)	相 手 方	契約金額
さっぽろまなびのサポート事業	札幌市長 上田文雄	47,844
さっぽろ若者サポートステーション事業	厚生労働省	28,473
岩見沢若者サポートステーション事業	厚生労働省	13,167

(2) 指定管理事業

単位：千円

契 約 の 概 要 (業務名)	相 手 方	契約金額
札幌市児童会館及び札幌市こども人形劇場管理業務	札幌市長 上田文雄	2,642,327
札幌市こどもの劇場やまびこ座管理業務	札幌市長 上田文雄	42,720
札幌市若者支援施設管理業務	札幌市長 上田文雄	154,112
札幌市定山溪自然の村管理業務	札幌市教育委員会委員長山中善夫	74,866
札幌エルプラザ公共4施設管理業務	札幌市長 上田文雄	242,900
札幌市青少年山の家管理業務	札幌市教育委員会委員長山中善夫	125,460
札幌市北方自然教育園管理業務	札幌市教育委員会委員長山中善夫	29,133

(3) 受託事業

単位：千円

契 約 の 概 要 (業務名)	相 手 方	契約金額
札幌市ミニ児童会館管理運営業務	札幌市長 上田文雄	1,129,906
札幌市地域子育て支援拠点事業運営業務	札幌市長 上田文雄	29,117
札幌市「放課後子ども館」管理運営業務	札幌市長 上田文雄	17,172

7. こども基金 (スマイルキッズ)

(1) 協力者一覧

寄付金総額 1,012,089 円 全 59 件

【法人】 5 件

寄付者氏名	寄付額
株式会社北野興業 2 件	80,000 円
株式会社館野オフィスサービス	30,000 円
株式会社ハビングループ	100,000 円
株式会社アートピア	150,000 円
合 計	360,000 円

【団体】 36 件

寄付者氏名	寄付額
やまびこ座読み語りの会	10,000 円
人形劇団ぽっけ	10,000 円
人形劇団ぽけっと 2 件	20,000 円
人形劇団えりっこ	10,000 円
第二桜台町内会 他 町内会関係団体 14 件	89,000 円
札幌地区青少年育成委員 会他 その他団体 15 件	150,089 円
合 計	289,089 円

【個人】 18 件

寄付者氏名	寄付額
個人寄付者	363,000 円
合 計	363,000 円

Ⅲ. 事 務 報 告

1. 設立年月日 : 昭和 5 5 年 4 月 1 日

2. 定款に定める目的

この法人は、人とのつながりを通じて青少年の健全育成と青少年女性の社会参加を促進し、魅力あふれる地域社会創造のための主体的な活動を支援することにより、地域社会の発展及び向上を図り、もって豊かな生活の実現に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成と社会参加に関する事業
- (2) 社会教育の推進に関する事業
- (3) 市民活動の振興に関する事業
- (4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

4. 事務所の状況

主たる事務所 : 札幌市西区宮の沢 1 条 1 丁目 1 番 1 0 号

従たる事務所 : 札幌市北区新琴似 8 条 1 丁目 1 番 3 4 号 2 階

5. 役員等に関する事項

(1) 理事

理事長	岡 村 龍 一	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 理事長
専務理事	齋 藤 彰	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 専務理事
理 事	忍 博 次	北海道社会福祉協議会 副会長理事
理 事	佐 藤 和 子	札幌市女性団体連絡協議会 会長
理 事	相 馬 宏 哉	NPO法人ネイチャープログラムデザイン理事長
理 事	前 田 元 照	(一社)札幌市私立幼稚園連合会会長

(2) 監事

監 事	西 田 史 明	札幌商工会議所 総務部長
監 事	梅 津 太	税理士

[平成 27 年 3 月 31 日現在 計 8 名]

平成 26 年度における理事会は、次のとおり 4 回開催した。

開催年月日	議事事項	会議の結果
平成 26 年 6 月 5 日	【第 4 回理事会】 1 「平成 25 年度事業報告及び付属明細書の承認」の件 2 「平成 25 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び付属明細書並びに財産目録等の承認」の件 3 「定時評議員会の日時並びに目的である事項」の件	1 可決 2 可決 3 可決
平成 26 年 6 月 23 日	【第 5 回理事会】 1 「理事長及び専務理事の選定」の件	1 可決
平成 26 年 11 月 6 日	【第 6 回理事会】 1 「職務執行状況報告」の件	1 可決
平成 27 年 2 月 26 日	【第 7 回理事会】 1 「平成 26 年度予算の変更」の件 2 「平成 27 年度事業計画書及び収支予算書等の承認」の件 3 「変更認定申請」の件 4 「特定預金積立目標額の見直し」の件	1 可決 2 可決 3 可決 4 可決

(3) 評議員

評議員	石 垣 寿 枝	(公社)札幌市子ども会育成連合会 常務理事
評議員	上 田 厚 子	(公社)札幌市母子寡婦福祉連合会 会長
評議員	大 木 光 恵	NPO法人ぷろぐれっしょん 代表理事
評議員	加 藤 喜久子	北海道情報大学 教授
評議員	川 端 美 樹	札幌市PTA協議会 会長
評議員	菊 池 恒	札幌市商店街振興組合連合会 理事長
評議員	小 林 元 治	社会福祉法人札幌市豊平区社会福祉協議会 会長
評議員	杉 岡 直 人	北星学園大学 教授
評議員	濱 口 登代喜	(公財)北海道青少年育成協会 専務理事

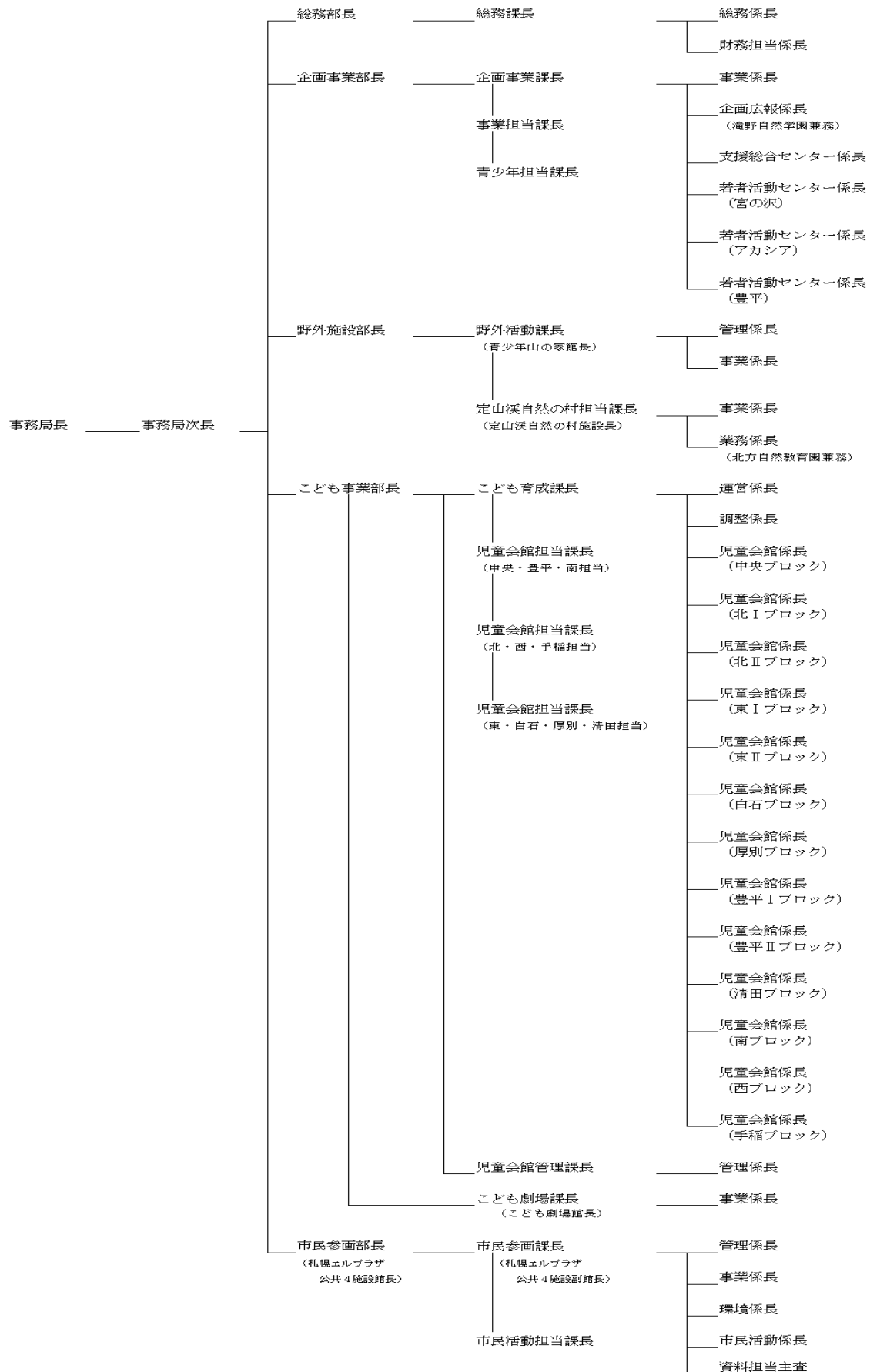
[平成 27 年 3 月 31 日現在 計 9 名]

平成 26 年度における評議員会は、次のとおり 1 回開催した。

開催年月日	議事事項	会議の結果
平成 26 年 6 月 23 日	【第 2 回評議員会】 1 「議事録署名人の選出」の件 2 「平成 25 年度事業報告及び付属明細書の承認」の件 3 「平成 25 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び付属明細書並びに財産目録等の承認」の件 4 「理事選任」の件 5 「評議員の退任及び選任」の件	1 可決 2 可決 3 可決 4 可決 5 可決

6. 職員に関する事項（平成 26 年度末現在）

平成 27 年 3 月 31 日現在における事務局組織は次のとおりである。



(1) 主要な職員

役職名	氏 名	採用年月日	担 当 職 務
事務局長	大 川 泰 尚	昭和 55 年 4 月 1 日	事務局の総括
事務局次長	谷 山 正 司	平成 23 年 4 月 1 日	事業部門の総括
総務部長	生 出 裕 一	平成 1 年 6 月 19 日	財団運営・総務課業務の総括
こども事業部長	寺 田 陽 子	昭和 55 年 4 月 1 日	こども育成課・管理課、こども劇場課業務の総括
市民参画部長	岩 寄 義 純	昭和 63 年 6 月 1 日	市民参画課の総括
野外施設部長	下川原 清 貴	昭和 63 年 12 月 14 日	野外活動課の総括
総務課長	佐々木 勝 敏	平成 12 年 4 月 1 日	総務・財務・労務・経理等の総括
企画事業課長	井 崎 光 男	昭和 59 年 4 月 1 日	企画事業課業務の総括
事業担当課長	石 井 一 彦	昭和 63 年 4 月 1 日	自主事業の実施等総括等
青少年担当課長	穴 澤 義 晴	昭和 63 年 4 月 1 日	若者支援事業の総括
定山溪自然の村担当課長	志 賀 和 行	昭和 63 年 2 月 1 日	定山溪自然の村の総括
こども育成課長	五十嵐 健 二	平成 1 年 4 月 1 日	こども育成課の総括
児童会館管理課長	会 田 彰 仁	平成 4 年 2 月 1 日	児童会館管理に関する総括
児童会館担当課長	斉 藤 隆 弘	昭和 60 年 4 月 1 日	児童会館（中央・豊平・南担当）
児童会館担当課長	齋 藤 隆 仁	昭和 59 年 4 月 1 日	児童会館（西・北・手稲担当）
児童会館担当課長	蓮 井 潤 子	平成 4 年 4 月 1 日	児童会館（東・白石・厚別・清田担当）
市民参画課長	岡 本 峰 子	昭和 61 年 4 月 1 日	エルプラザ公共 4 施設業務の総括
市民活動担当課長	佐々木洋一郎	昭和 56 年 4 月 1 日	市民活動に関する調整
こども劇場課長	矢 吹 英 孝	平成 3 年 4 月 1 日	こども劇場課の総括

(2) 職員数

事務局長/事務局次長	2 名	再任用職員	1 1 名
主任指導員	1 5 4 名	サポースタッフ	1 0 6 名
指導員	4 2 0 名	臨時職員	1 2 1 名
専門指導員	7 5 名	パートスタッフ	3 6 5 名
合 計			1, 2 5 4 名
内常勤職員数	7 6 8 名	内非常勤職員数	4 8 6 名

7. 会計に関する事項

公認会計士の関与の有無

監査契約締結（「独立監査人の監査報告書」：平成 2 7 年 5 月 2 6 日受理）



公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会